

アニメ映画のリメイク作品から見る時代の変化

—ドラえもんリメイク作品の調査から—

中田美喜子*, 作田 愛**

(2020年12月1日 受理)

Changes in the Times Seen from the Remake Anime Movies

—From a Survey of Doraemon Remake Anime Movies—

Mikiko NAKATA*, Ai SAKUDA**

Keywords: Remake movie リメイク映画, Doraemon ドラえもん, discrimination 差別

1. はじめに

近年、映画制作の分野において多くのリメイク作品が制作されている。元々日本で公開したことのある作品を数年経ち海外でリメイク作品として公開されることもあり、海外で元々あった作品を国内で新しくリメイクするなど多くのリメイク作品があふれている。

ここ数年で多く見られるのはディズニー作品をアニメーションから実写化にリメイクした作品である。数々の名作を世界に送り出してきたウォルト・ディズニー・スタジオ、そのなかで長年の時を経て実写映画化された作品、そしてこれから実写化としてリメイクが予定されている作品もいくつかある。ここ5年ほどの間で多くの作品が公開されている。

グリム童話「眠れる森の美女」、ディズニーでは1959年にアニメーション映画として「眠れる森の美女」を制作した。そして、「眠れる森の美女」を実写化としてリメイクしたのが2014年の「マレフィセント」である。ただし少し変わったリメイクで、ヒロインに「永遠の眠り」の呪いをかけた悪役のマレフィセントの視点から描かれた物語になっている。

次に古くからの童話がベースとなった物語である「シンデレラ」である。17世紀のフランス詩人のシャルル・ペローによるものと言われており、映画、音楽、舞台など様々な二次的な表現が生まれている。ディズニー版は

1950年にアニメ映画として公開され、2015年に実写版「シンデレラ」を公開している。

「美女と野獣」はこれまで文学やバレエ、舞台など様々な解釈によって物語を綴ってきた。映画化は幾度となく行われ、1940年と2014年にも実写化されている。ディズニーがアニメーション映画として「美女と野獣」を公開したのは1991年である。アニメーション映画史上初となるアカデミー賞作品賞にノミネートされた。さらに、一つの作品から3つの楽曲がアカデミー歌曲賞にノミネートされゴールデングローブ賞、グラミー賞でも次々に賞を獲得した。それは社会現象といえるほどの勢いで、一大センセーションを巻き起こしたといえる。その後、2017年に新たなキャストを迎え実写映画「美女と野獣」として公開した。

最後にイスラム世界の説話、千夜一夜物語の「アラジンと魔法のランプ」を原案に1992年ディズニーが制作したアニメーション映画は「アラジン」である。ユーモアあふれるストーリー展開だけでなく、アカデミー歌曲賞を受賞した「ホール・ニュー・ワールド」をはじめとする音楽も記憶に残るものであった。この名作は2019年にミュージカル映画として公開されている。

その他にも「ダンボ」、「ライオンキング」、「くるみ割り人形」など多数の作品が実写化してリメイクされている。さらに「ムーラン」、「リトル・マーメイド」が実写版として公開を控えている。このように近年ではリメイク作品が数多く制作されてきていることが伺える。

一方日本のアニメ映画については、コミック版を原作

* 広島女学院大学人文学部・人間生活学部共通教育部門
(国際教養学部国際教養学科) 教授

** 広島女学院大学国際教養学部国際教養学科2019年度卒業生

として映画や実写ドラマになっていくものもあり、また実際のアニメによって映画化されているものも数多くある。中でも日本のアニメーション映画において最長の歴史を持つ作品であり、現時点で6本ものリメイク作品を制作している「ドラえもん」映画に着目して述べていく。

映画「ドラえもん」シリーズは、1980年に第一作目「のび太の恐竜」が公開されて以降、現在まで39作が公開されている日本最長のアニメーションシリーズ映画作品である。2020年に40作目の公開もされている。

2005年には声優をはじめスタッフを総入れ替えして以降、2019年現在までに14作の劇場版長編が公開されており、そのうち6作がすでに公開された作品のリメイクである(表1)。

ドラえもんの映画は、「ドラえもん のび太の恐竜」(1980)から始まり、「のび太の宇宙開拓史」(1981)、「のび太の大魔境」(1982)、「のび太の海底鬼岩城」(1983)、「のび太の魔界大冒険」(1984)、「のび太の宇宙小戦争(リトル・スター・ウォーズ)」(1985)、「のび太と鉄人兵団」(1986)、「のび太と竜の騎士」(1987)、「のび太の平行西遊記」(1988)、「のび太の日本誕生」(1989)、「のび太とアニマル惑星(プラネット)」(1990)、「のび太のドラビアンナイト」(1991)、「のび太と雲の王国」(1992)、「のび太とブリキの迷宮(ラビリンス)」(1993)、「のび太と夢幻三剣士」(1994)、「のび太の創世日記」(1995)、「のび太と銀河超特急(エクスプレス)」(1996)、「のび太のねじ巻き都市(シティー)冒険記」(1997)、「のび太の南海大冒険」(1998)、「のび太の宇宙漂流記」(1999)、「のび太の太陽王伝説」(2000)、「のび太と翼の勇者たち」(2001)、「のび太とロボット王国(キングダム)」(2002)、「のび太とふしぎ風使い」(2003)、「のび太のワンニャン時空伝」(2004)である。

ドラえもん初のリメイク作品は「のび太の恐竜2006」(2006)である。この作品はドラえもんの映画で初めて公開された「ドラえもん のび太の恐竜」を26年経ってリ

メイクしたものである。リメイク2作目の「のび太の新魔界大冒険～7人の魔法使い～」(2007)は「のび太の魔界大冒険」(1984)のリメイクである。リメイク3作品目である「新・のび太の宇宙開拓史」(2009)は「のび太の宇宙開拓史」のリメイクである。

その前年には「のび太と緑の巨人伝」(2008)、その後には「のび太の人魚大海戦」(2010)を公開している。

リメイク4作品目の「新・のび太と鉄人兵団～はばたけ天使たち～」(2011)は「のび太と鉄人兵団」(1986)のリメイクである。

その後、「のび太と奇跡の島～アニマルアドベンチャー～」(2012)、「のび太のひみつ道具博物館(ミュージアム)」(2013)を公開して、リメイク5作品目の「新・のび太の大魔境～ペコと5人の探検隊～」(2014)を公開した。これは「のび太の大魔境」(1982)のリメイクであった。その後さらに「のび太の宇宙英雄記(スペースヒーローズ)」(2015)を公開している。リメイク6作品目は「新・のび太の日本誕生」(2016)である。「のび太の日本誕生」(1989)のリメイクである。その後は「のび太の南極カチコチ大冒険」(2017)、「のび太の宝島」(2018)、「のび太の月面探査記」(2019)、「のび太の新恐竜」(2020)といった作品を公開している。

幼児から小中学生まで視聴する年齢の幅の広いアニメとして、また幼児期において様々な発達段階に影響を及ぼすと思われる内容が含まれていると考えられる。話の中には友人関係、社会性、協調性などのほかにも人間愛など様々な内容を網羅して物語は進められている。しかし、1980年代における最初の映画においては、現在では問題にされそうな映像や言語的表現などが出てくることに気づく人もいると思われる。特に幼少期において、これらの問題映像を視聴することで差別的考えが潜在的に植え付けられる可能性も否定はできない。それを考えるとリメイクにおいてはそれらの問題点を修正しているのではないかと思われた。特に近年におけるセクハラ、パ

表1 ドラえもん映画のリメイク作品一覧

公開年	オリジナル	公開年	リメイク
1980	ドラえもん のび太の恐竜	2006	のび太の恐竜2006
1984	のび太の魔界大冒険	2007	のび太の新魔界大冒険～7人の魔法使い～
1981	のび太の宇宙開拓史	2009	新・のび太の宇宙開拓史
1986	のび太と鉄人兵団	2011	新・のび太と鉄人兵団～はばたけ天使たち～
1982	のび太の大魔境	2014	新・のび太の大魔境～ペコと5人の探検隊～
1989	のび太の日本誕生	2016	新・のび太の日本誕生

ワハラ、ジェンダー問題などについて以前は問題にならなかった言葉使いや表現などが含まれているのではないかと考えた。

「ドラえもん」映画のリメイク作品に注目した研究としてはオリジナル版とそのリメイク版を比較し、子どもの表象の変化を読み取ろうと試み、どのように異なっているのかをストーリーテリングやキャラクターに着目した作品分析を行っている研究が報告されている（植田，2014）¹⁾。報告によると「オリジナル版には存在しなかった新しい登場人物が増え、物語がより複雑化していること、それに加え、フラッシュバックやツーショットが多用されることによってメロドラマ的要素が強調されていることがわかった。またリメイク版では、オリジナル版にも登場しているキャラクターに新たに「萌え」要素が付け加えられていること、そして、社会的・文化的変化から母性と父性が表象されていることを明らかにした。」と分析している。また、ディズニーのプリンセスについての分析報告では、近年プリンセスはプリンスと一緒に協力して問題解決を行っているとする行動に変化してきていると報告されている（上瀬ら，2016）²⁾。

そこで、本研究では現代においてリメイクした場合に、植田（2014）同様どの部分をどのように修正しているのかに注目して調査を行った。本調査では特にジェンダー差別・パワハラ・暴力に注目してオリジナルとリメイクを調査することでどのように考えどのように修正しているのか比較を行った。

2. 調査方法

オリジナル版とリメイク版をあらかじめ決めた項目に注目しながら映画を視聴する。今回の主な項目として登場人物同士の会話の内容、男女それぞれの行動の内容、登場人物の服装を挙げる。映画を視聴しながら、気づいた点のメモを取っていく。

そこから、オリジナル版が数十年経った後にリメイクされたことによって、どこかのシーンがどのような表現に変化をしているのかを照らし合わせる。これを踏まえて会話の中に男女によって差別的な表現がないか、男女による遊びの違いはあるのか、ドラえもんという作品の中で度々出てくるしずかちゃんの入浴シーンについて、主に女性の登場人物の服装の変化など気になった項目をピックアップして分析する。なぜ元々のシーンがリメイク作品によって変化をしたのかを今現在の社会性、風潮などと比較して分析を行う。今回は6つのリメイク作品をそれぞれオリジナルを視聴したのち、リメイク作品を視聴した。視聴する際には上述の項目について比較でき

るように一覧表に表し後ほど比較を行った。声優については、表2に示すように、2006年からすべて交代している。現在では亡くなった方もあるので2005年の交代はよかったことと思われた。

表2 メインキャラクターの声優

キャラクター	声優（1979年から）	声優（2006年から）
ドラえもん	大山のぶ代	水田わさび
のび太	小原乃梨子	大原めぐみ
しずか	野村道子	かかずゆみ
ジャイアン	たてかべ和也	木村昴
スネ夫	肝付兼太	関智一

6作品の概略を表3に示した。概略はすべてWOWOWの公開概略を引用した³⁾。

WOWOWとは、株式会社WOWOWが運営する有料衛星放送チャンネルである。スカパー！各サービス、ケーブルテレビなどで放送している。運営会社の旧社名は「日本衛星放送株式会社」（JSB）。1991年4月、日本初の有料衛星放送チャンネルとして開局された。当初はBSアナログ3chで放送されていたが、10月25日よりBSアナログ5chに移動した。テレビCMによる広告付きの無料放送が当たり前だった日本の民間テレビ放送の中では、なかなか「視聴料を払ってテレビを見る」という習慣が根付かず、当初は借金まみれの赤字経営であったという。しかし、映画、舞台中継、音楽ライブ中継、海外スポーツ中継を軸にしたマニア向けの編成を推し進め、民間テレビ有料放送を定着させることに成功した。この成功が現在のケーブルテレビやスカパー！に与えた影響は大きいと報告されている。

WOWOWアニメは1998年4月、それまでディズニーや手塚治虫作品などファミリー向けアニメしか流していなかったWOWOWがマニア向けアニメに参入した。

当初はWOWOWの宣伝を目的としたノンスクランブル（無料放送）アニメが多く放送されていた。無料放送のためテレビCMが放送されていたが、地上波と異なり本編の前後に入れて話を分断しないなどマニアにやさしい構成の放送方法であった。

スポンサー側としても地上波キー局と異なり全国放送が安価でできるというメリットもあり、1998年～2001年頃をピークに数多くのアニメが放送されていた。

この中でアニメ「ドラえもん」の公開映画が継続して放送されている。現在のリメイク6作品はオリジナルとリメイクともに放送されている。

表3 リメイク6作品とオリジナルの概要一覧

タイトル	ドラえもん のび太の恐竜	ドラえもん のび太の新恐竜
公開年	1980年	2006年
概要	記念すべき「映画ドラえもん」第1作。現代で孵化させた首長竜を本来のすみかに帰すため、のび太とドラえもんたちが1億年前の白亜紀を舞台に大冒険を繰り広げる。 原作者藤子・F・不二雄自身が脚本に参加し、もともとは短編だった漫画版のエピソードを大きく膨らませて大冒険の長編に仕立てた。日常を飛び出して、首長竜の暮らす1億年過去の白亜紀という大スケールの舞台、ジャイアン、スネ夫、しずかたちおなじみの仲間が冒険を通じて深めていく友情、そしてのび太と首長竜の“ビー助”との出会いと別れの物語など、その後のシリーズでも受け継がれる「映画ドラえもん」ならではの要素が詰まった記念すべき作品だ。	1980年の劇場版第1作「～のび太の恐竜」をリメイクした「映画ドラえもん」第26作。のび太と首長竜ビー助との絆、ドラえもんたちの大冒険が新たな映像でよみがえる。 のび太が現代で孵化させた首長竜“ビー助”を本来の白亜紀に戻そうとするのだが、密猟者の恐竜ハンターたちがビー助に目を付け、1億年前の地球を舞台に壮大な冒険が展開する。26年ぶりの再映画化とあって、CGを多用するなど洗練された映像や新しい学説に基づく恐竜たちの姿も見どころだが、何より時代を経て色あせない藤子・F・不二雄の描く物語の力強さに驚かされるだろう。
タイトル	のび太の魔界大冒険	のび太の新魔界大冒険 ～7人の魔法使い～
公開年	1984	2007
概要	大長編ドラえもん及び映画ドラえもん第5作。映画の公開は1984年。「魔法」をテーマとしており、劇場版にドラマが初登場した作品でもある（原作者が描いた大長編への登場は本作が唯一）。 「もしもボックス」により実現した「魔法が科学の代わりに発達した世界」を舞台に、ドラえもんと野比のび太、そして5人の魔法使いたちが活躍する。リメイク版『新魔界大冒険』では原作にあった矛盾点の解消や現実世界とのリンクなどについても描かれている。またセワシが登場している唯一のリメイク版作品でもある。 国民的アニメの劇場版「映画ドラえもん」シリーズ、第5弾は魔法の世界が舞台。もしもの世界を現実に変える“もしもボックス”で、科学の代わりに魔法が発達した世界へ入り込んだのび太。だが、のび太のママがもしもボックスを捨ててしまい、元の世界へ戻れなくなって……。大魔王をはじめとする魔物たちとの激しい戦いや、猫の姿になる呪いを掛けられ、月の光を浴びている間だけ人間に戻るゲストキャラクターの美夜子との交流など、「映画ドラえもん」らしい大スケールでドラマティックな大冒険が描かれる。	「もしも……魔法の世界になったら!!」。魔法が使えることを夢見るのび太が、もしもボックスでそう願うと、次の日の朝には、街の空は空飛ぶじゅうたんてんといっぱい!! ママは指先から光を出して朝食を作り、小学校では物体をうかす授業をしている。そう、本当の魔法世界になったのだ!! そんななか、のび太とドラえもんは魔界博士の満月先生とその娘の美夜子に出会い、博士の魔界接近説を聞いた。魔界が接近して地球をほろほすというのだ。にわかには信じがたいのび太たち。だが、次の日、再び満月博士の家を訪ねると、博士の家が跡形もなく消えていた!! すべてが謎のまま夜を迎えると、昼間からのび太たちのそばにいた不思議なネコが、月の光を浴びて、美夜子になった!! 彼女は博士が魔物にさらわれたと言い、いっしょに魔界に乗りこんでほしいと哀願する。さあ、どうする!? のび太、ドラえもん!! 仰天摩訶不思議の大長編シリーズ第5弾!!
タイトル	のび太の宇宙開拓史	新・のび太の宇宙開拓史
公開年	1981	2009
概要	のび太の部屋の畳の真下が、はるか彼方のコーヤコーヤ星に暮らす少年の宇宙船とつながってしまった! 宇宙の開拓星を舞台に大冒険が展開する「映画ドラえもん」第2作。 原作者の藤子・F・不二雄自らが脚本を担当、空間のねじれでのび太の部屋と遠い宇宙の星がつながってしまうという奇想天外な発端から、春になると大洪水で一時的に水没する開拓惑星や反重力エネルギーを発生させる鉱石など、SFマインドあふれるアイデアが詰まった冒険が展開する。ジャイアンとスネ夫、しずかというおなじみの仲間たちが見せる意外な一面や、それぞれが個性を活かしてピンチを乗り越えていく姿も見どころだ。	のび太の部屋の畳の下とはるか彼方の宇宙船のハッチがつながってしまった! 宇宙の開拓惑星を舞台に、悪徳企業との戦いが繰り広げられる「映画ドラえもん」第29作。 1981年に公開された映画シリーズ第2作をリメイク、宇宙の彼方の開拓惑星コーヤコーヤ星を舞台に、のび太たちと宇宙開拓者の家族との交流、そして大冒険を描く第29作。リメイク版とオリジナル版との大きな違いは、移民船の故障で父親が行方不明になり、他の開拓者と距離を置いている少女モリーナが重要なゲストキャラクターとして新登場したこと。彼女をめぐるサイドストーリーも見どころの一つだ。コーヤコーヤ星の不思議な生き物たちも大幅に追加、刷新され、以前の版を観た人も新鮮に楽しめる作品になった。
タイトル	のび太と鉄人兵団	新・のび太と鉄人兵団 ～はばたけ 天使たち～
公開年	1986	2011
概要	巨大なロボットを拾って喜ぶのび太だったが、それは地球攻撃をたくらむロボットの星からの先兵だった! 迫力のロボットバトルが展開する「映画ドラえもん」第7作。 ロボットの星メカトピアからやって来た“鉄人兵団”の襲撃に、のび太とドラえもんたちが立ち上がる! のび太が拾って組み立てた巨大ロボット“ザンダクロス”の活躍に加え、のび太たち地球人の優しさを知ったロボットの少女リルが、地球侵略という命令との間で揺れ動く心の葛藤など、アクションとドラマ両面で見どころが満載だ。ドラえもんが改造してしゃべるようになったスネ夫のラジコンロボット、ミクロスのコミックリリーフぶりも見逃せない。	巨大ロボットを拾ったのび太とドラえもん。だがそれは、地球侵略をたくらむロボット軍団“鉄人兵団”の先兵だった! 壮大なスケールで描く「映画ドラえもん」第31作。 1986年製作の映画第7作を25年ぶりにリメイクした第31作。のび太とドラえもんたちがたった5人で鉄人兵団の大軍を迎え撃つ壮絶な戦いが、進化したアニメ技術で装いも新たによみがえった。巨大ロボット“ザンダクロス”と鉄人兵団とのまさに死闘と呼ぶべき戦いは必見だ。オリジナル版との大きな違いは、単なる球体だったザンダクロスの電子頭脳に、今作ではヒョコのような姿をした“ピッポ”というキャラクターが与えられたこと。かわいいが口の悪いピッポとのび太やドラえもんとの交流も重要な役割を果たす。
タイトル	のび太の大魔境	新・のび太の大魔境 ～ペコと5人の探検隊～
公開年	1982	2014
概要	のび太の家に迷い込んできた子犬は、なんと犬の王国の王子だった! アフリカ奥地の大魔境に人知れず存在していた犬の王国を舞台に描く「映画ドラえもん」第3弾。 ジャイアンとスネ夫に頼まれて、誰も行ったことのない魔境を探すことになったのび太とドラえもん。そんな中、のび太が飼い始めた迷い犬のペコが膨大な航空写真の山から不思議な巨神像が写った1枚を選び出し……。今作も原作者の藤子・F・不二雄が脚本を担当、外界と隔絶されたジャングルの奥地で独自の文明を築いた犬たちの王国が、悪い大臣の野望で人間界の征服をたくらむという壮大なストーリーが展開する。	人間がまだ行ったことのない秘境を探すドラえもんたちが、やがて邪悪な大臣に奪われた犬の王国の平和を取り戻す戦いに巻き込まれていく。「映画ドラえもん」第34作。 1982年製作の映画第3作をリメイクしたシリーズ第34作。これまでの過去作りメイクでは、新キャラクターや新要素を加えたアレンジも一つの見どころとなっていたが、本作では主要キャラクターとあらずじにはほとんど手を加えず、登場人物をより深く掘り下げ、冒険場面は現代のアニメ技術や演出でより迫力たっぷり、という骨太の再構築がなされた。結果、オリジナル版でも描かれたジャイアンの孤立や、のび太とペコの友情がドラマ性豊かに描き直され、新たな輝きを放つ夢と感動の冒険物語としてよみがえった。
タイトル	のび太の日本誕生	新・のび太の日本誕生
公開年	1989	2016
概要	7万年過去の世界から流されてきた原始少年と友達になったのび太たちは、少年の部族を襲った謎の首領“精霊王ギガゾンビ”に立ち向かう。「映画ドラえもん」第10弾。 国民的人気アニメの劇場版「映画ドラえもん」。節目の第10作は、まだ人類が原始生活を送っていた7万年前の世界が舞台。凶暴な部族を従え、妖しい術を使う謎の男・精霊王ギガゾンビから原始の少年クルの部族を守るため、ドラえもんとのび太たちが大冒険を繰り広げる。親や先生に見つからない場所を探して太古の日本に家出するのび太と仲間たちの等身大の悩みから、クルたちが過去の人々との交流、そしてギガゾンビとの激しい戦いまで、感動と冒険が詰まった「映画ドラえもん」ならではの10作目に仕上がった。	それぞれの理由で家出を決心したのび太たちは、まだ人が定住していなかった7万年前の日本へ! 映画第10作をもとに壮大な冒険が描かれる「映画ドラえもん」第36作。 まだ人間が住んでおらず、大陸と地続きだった7万年前の日本を舞台に、のび太やドラえもんたちと、妖しい力を持った謎の敵“ギガゾンビ”との戦いが繰り広げられるスバクタクルアドベンチャーの「映画ドラえもん」第36作。映画シリーズ第10作のリメイクで、原始少年クルの勇気や、ドラえもんのひみつ道具をもってしても圧倒されるギガゾンビの強さなどがよりドラマティックに描かれるほか、のび太と3頭の空想動物や、家出したのび太たちを心配する親たちなど、キャラクターたちの絆がより強く打ち出された。

(出典: WOWOW 公式ホームページ)

視聴した後の一覧表でオリジナルとリメイクが異なっている部分だけを一覧表とした。

最初のリメイク作品であった「ドラえもん のび太の恐竜」については以下についての違いがあげられる(表4)。

母親たちの服装がワンピース・スカートにエプロンをかけているシーンがほとんどであったが、リメイクでは、エプロンが少なくなり、中にはパンツスタイルも出現している。

父親の家での服装は着物が基本であったが、リメイクでは洋服になっていることが多い。1シーンだけ着物がそのまま描かれていた。

しずかちゃんの水着シーンやお風呂のシーンの裸部分が全面からの描写でなく顔だけを描いたりすることで裸のシーンを少なくしている。セクハラや幼児ポルノの問題として取り上げられることのないようにこれらのシーンを修正したことが考えられる。

恐竜を突き放す場面では、オリジナルでは平手打ちをしているが、リメイクでは言葉による突き放しとなっている。平手打ちでも暴力的であるとの判断から言葉によるものに修正されたと思われる。

悪者との戦いについては、オリジナルではタイムパトロールに助けをもらうが、リメイクでは自分たちで戦い悪者と退治している。さらにタイムマシンで送ってもらうのではなく自分たちでタイムマシンを修理して自力で自宅に帰っている。子供の自主性を大切にする話の流れであると思われた。

次のリメイク作品は「のび太の魔界大冒険」である。この作品の場合違いは数点だけであった(表5)。

母親などがでてくるシーンがほとんどないために服装の違いなどは認められなかった。

父親は帰宅しても着物に着替えることはなかった。そのままネクタイを外しているだけの姿であった。

しずかちゃんの入浴シーンはオリジナルではなかったが、リメイクではシャワーがあるかを問うシーンはあるが、実際にシャワーしている場面は描かれていなかった。その後の身だしなみを整える部分のみが描かれていた。

背景の説明がオリジナルでは不十分であったが、人物の背景の説明を物語の最初から登場させて行っている。さらに、オリジナルでは出現していなかったヒロインの母親をリメイクでは出現させて、子供の病気を治すためには魂でも売るといふ母親の愛情を表している。

「ドラえもん」の妹である「ドラミちゃん」が最初に登場した作品であると報告されている。この作品では差別的な発言やジェンダーについての修正は明確には行われていなかった。

「のび太の宇宙開拓史」のリメイクとオリジナルを比較した(表6)。

母親や父親の出現は少なく、ほとんどなかった。

しずかちゃんは、〇〇君と呼んでいた部分が〇〇さんに呼び方が異なっている。しかしオリジナルでも「のびたさん」と呼んでいる作品もあるため、考えて呼ばせていたのはどうかはわからないが、リメイクにおいてはすべて「さん」で呼んでいるため、近年のジェンダーによる差別的な発言として「君」という呼び方を検討してすべて「さん」と呼んでいると思われる。

表4 「ドラえもん のび太の恐竜」リメイクとの違い一覧

タイトル	ドラえもん のび太の恐竜	ドラえもん のび太の新恐竜	違い
公開年	1980年	2006年	
のび太のママ	ワンピース・エプロン	ノースリーブワンピース	ノースリーブになっている
パパ	帰宅後着物に着かえる	そのまま寝室にくる	パパも子供のころ恐竜にあこがれたと追加
ピー助の遊ぶボール	バレーボール	ピンクのボール	特別な競技を思い出すボールでなく空気の入っている単なるボール
水着に着かえる	しずかちゃん着せ替え、海水パンツで前向きで上半身裸シーン	自分で描いた水着に着かえる、取り違えてしずかちゃん上半身裸シーンを後ろ向きで	裸のシーンがソフトになっている
しずかちゃんシャワー	上半身はだか	顔だけ	裸のシーンがある
ピー助との別れ	ひっぱたく	言葉で言って突き放す	たたくことが暴力的なので言葉で突き放している
ピー助との別れ(日本)	恐竜の女の子が迎えにくる	恐竜が鳴き声で仲間を呼ぶ、呼ばれた先に女の子	女の子が向かえりくるところが無し
悪者と戦うシーン	悪者から逃れタイムパトロールに助けられる	悪者から自分たちで逃れる、悪者を捕まえてパトロールに引き渡す	自分たちで悪者退治
帰還	タイムパトロールに送ってもらう	自分たちでタイムマシンを修理して帰る	自分たちでかえっていく

表5 「のび太の魔界大冒険」リメイクとの違い一覧

タイトル	のび太の魔界大冒険	のび太の新魔界大冒険 ～7人の魔法使い～	違い
公開年	1984	2007	
魔法をかけて変身させられた	猫に変身	ネズミに変身して猫に	ネズミに変身して気づきにくくしている。ネズミが苦手な猫に変身させている。
母	母いない	母が悪魔に魂を渡して娘を助けた	母が娘を助けるために魂でも売ることを強調
空飛ぶ絨毯	下に部屋がある	下に個室が多数ある, シャワーあるか聞いてしずかちゃんはシャワー使用	シャワー使用後のシーンのみ
背景説明	なし	牧師さんと娘がテレビにでて考えを述べている	牧師と娘がいきなり出てくるのではなく, きちんと背景を説明している
ドラミ	助けにくる	ドラミとせだしくんがドラえもの腹痛処理でてくる	ドラミが最初に登場したらしい

表6 「のび太の宇宙開拓史」リメイクとの違い一覧

タイトル	のび太の宇宙開拓史	新・のび太の宇宙開拓史	違い
公開年	1981	2009	
しずかちゃん	のび太君, スネ夫君	のびたさん, スネ夫さん すべてさんになっている	君からさんづけになっている
宇宙の隣の人	悪者にロープで縛られ引きずられる	悪者に排除されるだけ	ロープで引きずるのは残酷なので押されて排除されるだけになっている
科学者の父親	説明なし 男の子の父親	宇宙船外作業で飛ばされるモリーナという女の子の父親	父親, 科学者の存在をつくっている
近隣の人々	なし	みんなで協力しあって, 集会をもっている 批判しあう場合もある	近隣の人々の力によってコミュニティーがつくられていることを強調
科学者父親	死んだまま	異次元で助かる	父親が助かる
子供	脅されて地球人が来る倉庫のドアを教える	モリーナが騙されて倉庫のドアを教える	子供を脅すシーンを無くしている
近隣の人々	なし	やっかみ, 協力いろいろ	近隣の人々の力によってコミュニティーがつくられているが問題もあることを示唆
宇宙にもってきたもの	金属バット, グローブ, 野球ボール	木製バット, グローブ, 野球ボール, しずかちゃんのバイオリン	木製バット? なんのためしずかちゃんバイオリンなんのため?

オリジナルでは人物がでてくる際に背景説明が無いことが多い。リメイクでは背景が説明されており、最初の物語がわかりやすくなっているといえる。

暴力的なシーンで、ロープで隣人を縛って引きずるシーンは押し返すだけの表現に修正されている。さらに、隣人などの地域の人々が多数でてくるように修正されている。村や町のように集団としてコミュニティーが形成されていくことで地域ができて人とのつながりを形成していくことを表現していると思われる。オリジナルにはなかった描写である。また子供を脅すシーンはなくなって騙されて居場所をしゃべる描写に修正されている。子供を脅すということも暴力的と考えられて削除されていることが認められる。

「のび太と鉄人兵団」のリメイクを比較した(表7)。その結果、母親、父親はほとんど登場しないため、服装の違いも描かれていなかったが、母親のエプロンが、前

掛けだったのがエプロンで描かれている。現代では前掛けはしばらく見られなかったが、最近イタリアレストランなどで小さな前掛けがおしゃれになってきているので前掛けの認識も現在ではあると思われる。現実にはエプロン形式が多いと思われる。

しずかちゃんは水着がワンピースからビキニになっており現代的になっているといえる。全体の説明については、事前に鉄人兵団の話などを説明しているため、背景がわかりやすい。ロボットのリルルの描写がはだしがブーツを履いて異なっている。しかしけがをして介抱のときに、裸を描いている。これはロボットであることを強調するため人間ではないとしてセクハラにも該当しないとして描写しているのではないと思われるが、女性として視聴すると、このシーンは幼児性ポルノに近いので修正が必要に思われた。また、夜の10時に子供が待ち合わせをするという設定はなくなっている。夜の10時に子

表7 「のび太と鉄人兵団」リメイクとの違い一覧

タイトル	のび太と鉄人兵団	新・のび太と鉄人兵団 ～はばたけ 天使たち～	違い
公開年	1986	2011	
食卓	正方形でそれぞれの辺に座ってる	長方形で長いところへ2人掛け	座り方が横に2人ずつになっている
ママ	ワンピースとエプロン（前掛けタイプ）	ワンピースとエプロン（エプロン）	エプロンが前掛けタイプからエプロンタイプになっている。
しずかちゃん	スカート 水着ワンピース	スカート 水着 ビキニ	水着がワンピースからビキニになっている
リルル	水着のような ストラップなし はだし	水着のような ストラップなし ブーツ	はだしがブーツを履いている
ロボットの武器	ミサイル	ビーム	ミサイルがもっと破壊力の大きい武器 ビームになっている
リルル	飛べることを不思議におもっていない	飛べることを不思議に思っている	考えるようになっている
ロボット自慢	子供が夜の10時に空き地で待ちあわせ	なし	夜の10時に子供が待ち合わせは遅すぎる
	クロ電話	プッシュフォン 固定電話	電話の世相を反映している
歌について	なし	貴族だけの特権	特権階級をつくっている
追加キャラクター	なし	ひよこの形でロボットの頭脳がキャラクターに	かわいいキャラクタをつくっている
裏切ったリルル	つかまって牢屋	公開処刑	公開処刑で残酷になっている
3万年前の科学者	太ってる	やせ型	科学者やせ型になっている
科学者	ふらふらするだけでリルルに指示を	途中で死んでしまってリルルに最後に指示を与えない	リルルが自分で考えてプログラムを完成させる
最後の操作	リルルに指示を	リルルが自分で考えて入力	自分で考えて完成させる
背景説明	なし	ロボット世界を最初に説明	ロボット世界の説明があるのでリルルが地球に来た目的などもわかりやすい
南極のシロクマ	リルルが投げ飛ばしたように見える	リルルが退治して殺してしまったようにみえる	絶滅危惧種を殺しているようにみえる

供が待ち合わせは遅すぎるという社会的な常識を反映したものであると思われる。

鉄人兵団のリメイクでは、オリジナルより暴力的な描写が行われていたり、戦うシーンの時間が長いなどがあげられる。またオリジナルでは模型ロボットやガンダム的なロボットが主役であったが、リメイクでは別のキャラクターを出現させることで模型ロボットなどが表に出てきにくい話の展開になっている。オリジナルの時代ではガンダムのようなロボットアニメが全盛の時代であったため、それを取り入れた作品となっていると思われる。リメイクの場合は、ロボットよりAIに近いロボットの方を主役にした物語に修正されている。今までリメイクでは暴力シーンは修正されてきているが、この作品ではロボットを人間的にみなさずロボットとして冷たく対処しているように思われたが、それは主観である可能性が高いと思う。

「のび太の大魔界」についてリメイクとの違いを一覧に示した（表8）。

母親・父親はでてくることがなかった。今回しずかちゃんの入浴シーンはなくなっている。

言葉遣いとして、「きたいない犬」といったよくない言葉を使っている部分が修正されている。友人との関係に

おいて、言葉に出して言わないとわからない部分が多いことを理解させるために、オリジナルでは黙って行動していた部分をすべて説明して行動するようになっている。いろいろな説明も静止画でなく動画で丁寧に説明している。これは以前の作成方法では時間と手間がかかり価格に反映するためであり、現在ではCGによる作成であるため、価格に反映しにくいためであると思われる。オリジナルに比較して丁寧に説明をいれて作成されていることが認められる。

子供たちの行動は黙っていくのではなく、すべて言葉に出して説明をしていることで何を考えて行動しているのかわかりやすくなっている。行動の理由が明確になっている。先住民の描き方において、女性が少なかったがリメイクでは女性を増やしているように思われる。

動物退治や戦いにおいて、できるだけ殺さないように、退治するだけ、戦車から人が逃げてからつぶすなど人を殺す戦いをしないように表現されている。また戦う場面でも安全に戦う場所を選択している。セクハラ的な発言であった「男だから」という発言は修正されている。物語全体として、話の筋をとおして一貫性をもたせるようになっている。

最後が「のび太の日本誕生」である。オリジナルとリ

表8 「のび太の大魔界」リメイクとの違い一覧

タイトル	のび太の大魔境	新・のび太の大魔境 ～ペコと5人の探検隊～	違い
公開年	1982	2014	
犬	きたない犬	言っていない	きたない犬などあまりよい言葉ではない表現を使っていたのを修正
犬飼うこと	お父さんが「お母さんが許したら」という	お父さんが「ダメダメ」といって	言い方が異なる
先住民	男ばかり	男ばかり 全員お祈りのときは女性も数名	女性が少しだけ加わっている
ジャイアン	すねて黙って部屋に行く	みんなに文句をいろいろ言っていて考えていることを言葉に出して言う	黙っていてもわからないので言葉に出して真意を言っている
スネ夫	だまっているがぐずぐずしている	他人のことにまきこまれないようにしたい、人のことはどうでもいいと発言する	自分の意思を言葉に出して意見として言っている
キャンプでしずか	先取り道具で裸でお風呂に入っているシーンあり	先取り道具でお風呂シーンなし	お風呂シーンを無くしている
しずかちゃん	ゴリラを投げ飛ばす	ゴリラをこらしめて逃がす	ゴリラを懲らしめて逃がすだけにしている
兵隊との戦い		長い？	戦い長く感じる
今までの経緯	話をするだけ静止画	説明を細かくして動画	説明もすべて動画で丁寧にしている
働く人(犬)	武器を使うところ多数	武器を作っている 女性もいる	武器を使うでなく作るだけに変えている
森の中	男児が立ちションする	なし	男児の立ちションはなし
馬車を止める	馬にやりを向ける	罾で馬車を止める	槍で馬を止めるのを罾で止めている
ジャイアン	黙って出て行った	行くぞ・・という	なんでも言葉にださないとわからないので言っている
しずかちゃん	説明をして責任を感じている男だからという	説明をして責任を感じている「男だから」はなし	「男だから」は削除
戦う場所	王子と隊長歯車のところで	のび太と隊長 石の廊下で	危険な場所で戦わない、石の廊下で戦って下には落ちない
戦ったあと	歯車に転落	石の廊下に倒れる	危険な場所で戦わない、石の廊下で戦って下には落ちない
戦い	そのまま戦う	戦車などから人が逃げてから戦車をつぶしている	戦いで人は死ぬでなく、人が逃げてから戦車などだけ破壊している。人を殺さない戦い方
お祝い	手をとる	国民に手をふる	国民という人々がいて賛同してくれる
ごちそう	無	パーティーでごちそうを食べる 約束した食事を2日分食べるを実行している	翌日食事を2倍にするという約束を果たしている
しずかちゃん	無	宮殿のお風呂に入る	宮殿のお風呂のシーンで裸のシーンをつくっている
わかれ	どこでもドアで手を振って別れる。自分たちは引き継ぎして	自分たちも引き継ぎして、みんなに挨拶して別れをしてから帰った 別れのシーンの言葉が多く長い	別れのシーンで言葉が多く、長く別れを惜んでいる

メイクの違いを一覧に示した(表9)。母親・父親はほとんど描かれていないため、違いは認められなかった。全体の背景を説明しないで物語に入っているのが、ククルの背景を詳しく説明してから話が始まるように修正されている。子供が夢を語る場面で「少女趣味」「男性的」という言葉は差別的なため、修正して使わなくなっている。またジャイアンがスネ夫を殴るシーンがあったが、これも暴力的であるため、削除されている。

特にククルが自分の出生を説明する際に「○○の息子」

と説明していた部分は「○○と○○の息子」と言って父親と母親の氏名を説明している。オリジナルでは父親だけの氏名であったことから、差別となるため両親の氏名を述べることで自分は出生していることを発言させている。さらに、遺伝子操作のペットをつくる段階で、植物を見てヒントを得た部分を黙ってそのまま作成させずに、説明をさせてから行動させている。オリジナルでは説明しないで行動したり、背景説明なしで新しいキャラクターや人が出てくるのが頻繁にあったが、リメイク

表9 「のび太の日本誕生」リメイクとの違い一覧

タイトル	のび太の日本誕生	新・のび太の日本誕生	違い
公開年	1989	2016	
ゴミ捨て場	ボンコツ車		記載なし？
夢を語る時	少女趣味、男性的などの発言がある	少女趣味、男性的などの発言はなし、ワイルドで原始的という発言に変更	少女趣味、男性的などの差別的な発言は避けている
ククル現代へ	森へ落ちる	森へ落ちて、ブルドーザを見る	現代社会へ来たことを機械に遭遇することでククルに早く気付かせるため
ジャイアン	スネ夫を殴る	なし	暴力的な場面は削除されている
ジャイアン	ククルに机の上に乗っちゃいけないと注意する	ククルと暴れまわって抑え込む	机の上に乗ることを問題視しない
ククル	ヒカリ族のタジカラの息子ククルと自己紹介している	ヒカリ族のタジカラとコイヤメの息子と自己紹介	父母両方の氏名で息子と名乗っている
遺伝子操作	記述なし	二股の木をみて遺伝子の合成を考えたことを言葉で説明している	何を考えているか言葉で説明しないと理解できない

では言葉で説明して物語を進めていくように変更されている。現代における言葉に出さないと理解できない部分が作品にもでていることが認められる。

3. まとめ

以上の結果から、「ドラえもん」映画におけるオリジナルとリメイク作品の違いは、差別的な要素を持った言葉を削除して修正することが行われている。さらに暴力的な行動や言動についても、すべて削除していることが示された。ただし戦争が必要な部分もあるため、戦うことは内容として含まれているが、できるだけ人を殺さないで戦う方法で戦いを表現している。特に男女差別については、それを想像させる言動がオリジナルには多く含まれていた。その部分はすべて削除されて修正されている。以前は男女差別、ジェンダー問題として取り上げられることは少なかった言動についても現在では問題となる部分が多いことが認められた。

母親・父親については服装で現代を表している部分もあるが、実際にはあまり描かれていない。しかし母親についてはオリジナルではエプロンを必ず身に着けているが、リメイクではいつも着けているわけではなかった。これはエプロンを身に着けることで、「主婦」で母親であるという存在を強調し、さらに女性にその地位を押し付けているのかもしれない部分であると思われる（棚沢ら、2007⁴⁾）。

家庭内における生活様式についても一般的に利用されている食卓・台所などのイメージは近年に近いものに修正されている。実際に家庭における生活様式のイメージをアニメから連想している学生がいることも報告されている（柳、2008⁵⁾）。

しずかちゃんの服装や母親の服装などでは、オリジナ

ルでは単色が多く使われていた洋服部分が繊細に描かれ、色も複数の色や模様を用いて服を描くことができるようになってきている。これは1980年代の作品制作はセル画で描かれており、現代はコンピュータで絵を描くデジタルアニメに変化しているからであると思われる。デジタルアニメでは絵を描くためのセルやセル専用の塗料を使用しないことでコストの低下にともない、修正などの手間暇も少なく制作することができるようになったのではないと思われる。そのため、オリジナルでは静止画になっていた説明部分にも動画を用いることができたと思われる（松谷、2012⁶⁾）。

さらに、暗黙の了解として黙っていても理解できるという考え方は現代ではわからないと思われる。そのため、すべてのリメイク作品において、説明は詳しく背景を必ず説明するという物語の流れが修正されている。これは現代の子供は言葉に表さないと理解できないという考えなのであると思われる。これらリメイク作品において現代の子供に正しく理解されるように今後もその時代に即した修正を繰り返して作品をリメイクしていかないとはいえないと思う。

追記：この論文は2019年度作田愛さんの卒業論文をもとに調査を追加して作成したものである。

参考文献

- 1) 植田真由, 映画『ドラえもん』シリーズに見る子どものイメージ—オリジナル版とリメイク版の比較から—, アニメーション研究, 日本アニメーション学会 15 (2) 23-33, 2014
- 2) 上瀬由美子・佐々木優子, 「ディズニープリンセス映画にみるジェンダー表現の変容: プリンセスの作動性に注目した量的分析」立正大学心理学研究年報 (7), 13-23, 2016

- 3) WOWOW 公式ホームページ <https://www.wowow.co.jp>
(2020/10/28)
- 4) 棚沢直子・中嶋公子, 「フランスから見る日本ジェンダー史—権力と女性表象の日仏比較—」新曜社218-219, 2007
- 5) 柳昌子, 絵画化された「家族」教材の解釈の多様性, 日本家庭科教育学会第51回大会, 日本家庭科教育学会第51回大会・2008例会, セッションID:A2-6, 2008
- 6) 松谷容作, マンガを語るもう一つの方法: 認知心理学を援用した『ドラえもん』分析を通じて, 美学芸術学論集, 神戸大学文学部芸術学研究室(8), 16-32, 2012